

編集後記

学会誌「色彩学」創刊号(2022年2月号)をお届けします。

本当に、お届けできてよかったです。会誌改革WG坂本主査はじめ関係の皆さま、そして電子化後も会誌に自らアクセスしご覧くださっている読者の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

もっと一気に様変わりすると思われていた方もおられるかもしれませんが、会誌レイアウトは基本的に『日本色彩学会誌』を踏襲しています。これをスタートとして、今後様々な試行錯誤のなかで電子版学会誌に適したかたちに進化してゆくでしょう。コンテンツに関しては、論文と大会予稿が別誌に移り、解説特集や連載、欧文誌抄録、報告等が学会誌に掲載されます。これまで頁数の都合で掲載できなかった資料等も今後は掲載できる見込みですので、学会員の情報交流に加えて学会活動のアーカイブとしての役割も増すものと思われまふ。もちろん新規企画も随時受け付け中です。

今号の解説特集は、色彩学の研究法や成果発表に関するテーマとしました。編集委員長就任以降、毎号の

編集後記を書くことに苦心し、歴代委員長は何を書いていたのかとバックナンバーを眺めていたときのことです。旧学会誌24巻1号(2000年3月)の編集後記の中で、当時の永田泰弘委員長が論文の作成や指導に関する話題に言及し、「論文の書き方まで特集しなければならぬのだろうか」と締めくくられていました。私もながく論文審査業務に携わる中で共感できる部分も大きく、そこに着想を得てこの企画が生まれました。もちろんせつかなので学会が誇る第一線の研究者に、ハウツー本では書かれていないような生々しい指導方法まで明かしていただきました。ご一読いただければわかる通り各先生とも気合入りまくりで、“特集でしか読めないような”エキサイティングな内容になったのではと思っています。

今後、学会誌は年4回の発行となり、次号は5月発行予定です。新型コロナの状況も予断を許さずその頃にどのような展開になっているか読めませんが、皆さま引き続きどうかご自愛ください。

(木村 敦)

日本色彩学会

委員長 木村 敦(理事) 副委員長：須長正治、富田圭子

色彩学編集委員会

委員 井澤尚子、和泉志穂、北口紗織、國本学史、神農悠聖、筒井亜湖、土居元紀、徳永留美、永井岳大、中村信次、名取和幸、根岸一平、羽成隆司、松田博子

印刷・発行 2022年2月20日

ISSN 2436-7443

発行人 篠田博之 編集人 木村 敦 編集事務局 辻埜孝之

発行所 一般社団法人日本色彩学会

東京都杉並区阿佐谷南1丁目16番9号 平野ビル3階 〒166-0004 (電)03-5913-7079

支 部 関東支部 埼玉県さいたま市岩槻区上野4-6-23 〒339-0073

一般財団法人日本色彩研究所内 (Fax)048-794-3901

関西支部 大阪府阪南市箱作2874-257 〒599-0232

(電)072-476-3028

東海支部 愛知県長久手市片平2-9 〒480-1197

愛知淑徳大学情報教育センター 山岸未沙子 気付 (電)0561-62-4111

(内線2852, 2656)

郵便振替 00190-2-3949

*無断複写・転載を禁じます